

## ① 導入可能性の検討

## ◆農産物直売所

市内にはすでに農産物直売所「きなあた瑞浪」があることから、今ある財産を生かし、地域全体の活力を高める施設のあり方について確認するため、「きなあた瑞浪」へのヒアリングを行いました。

- ・ 現時点において農作物の出荷が少ない。また出荷者が高齢化しているため増加も見込めない。
- ・ 道の駅に直売所を導入する場合、互いに農作物が不足する。
- ・ 将来的に、道の駅できなあたの商品を販売することはできるかもしれない。

上記より道の駅に農産物直売所を導入するのではなく、積極的に連携を図ることで、「きなあた瑞浪」と共に発展することを目指すことが望ましいと判断しました。

よって道の駅において農産物直売所は導入しない方針とします。

## ◆温浴施設

温浴施設の事例をもとに、維持管理にかかる費用を踏まえて、持続的な運営が可能かどうかについて確認を行いました。

図表 1 事業費(例)

| 項目    | 費用       | 備考                           |
|-------|----------|------------------------------|
| 温泉掘削費 | 約 1 億円   |                              |
| 施設整備費 | 約 4 億円   | 延べ面積 1,000 m <sup>2</sup> 程度 |
| 維持管理費 | 約 2 億円/年 | 人件費、光熱水費、消耗品費等               |

入浴料を 500 円/人と仮定する場合

維持管理費を収益で賄うために必要な集客数

$$2 \text{ 億円} \div 500 \text{ 円} = 40 \text{ 万人/年}$$

初期投資(温泉掘削費、施設整備費)を 5 年で回収するために必要な集客数

$$5 \text{ 億円} \div 500 \text{ 円} \div 5 \text{ 年} = 20 \text{ 万人/年}$$

オープンから 5 年間に必要な年間集客数

$$40 \text{ 万人} + 20 \text{ 万人} = \underline{60 \text{ 万人/年}}$$

集客数の参考事例(平成 28 年岐阜県観光入込客統計調査 表 9 より)

|                  |            |
|------------------|------------|
| 池田温泉             | 約 50 万人/年  |
| 土岐よりみち温泉         | 約 43 万人/年  |
| 下呂温泉(旅館の宿泊及び日帰り) | 約 120 万人/年 |
| 岐阜ファミリーパーク       | 約 58 万人/年  |
| 馬籠宿              | 約 68 万人/年  |

以上より、オープンから 5 年間は年間 60 万人以上を安定的に集客しなければ、収益を得ることが難しいことがわかりました。また出費はそれだけでなく、将来的な設備等の修繕・更新にかかる費用等もあるため、施設を維持することは容易ではないことが予想されます。

瑞浪の持続的発展を目指す上では、市民の方々にとって利益ある施設を導入することが望まれるため、道の駅において温浴施設は慎重に検討する方針とします。

## ② 導入機能の規模イメージ

## ◆道路利用者の立寄り人数

道路利用者の立寄り人数は、計画交通量をもとに道路設計要領等に従い、以下のとおり算定しました。

$$\text{立寄り人数} = \text{計画交通量} \times \text{立寄率} \times \text{平均乗車人員}$$

立寄率：小型車・バス 8%

「道路が有する新たな価値の創造～「道の駅」による拠点の形成～」(国土交通省)の値を採用。

大型貨物車 0.7%

「設計要領(第六集)建築施設編」平成 29 年 7 月(中日本高速道路)の PA の値を採用。

平均乗車人員：小型車 2.2 人 バス 24 人 貨物車 1.1 人

「設計要領(第六集)建築施設編」平成 29 年 7 月(中日本高速道路)の値を採用。

図表 2 算定根拠

| 車種    | 立寄率   | 平均乗車人員 | 駐車場占有率 |
|-------|-------|--------|--------|
| 小型車   | 0.012 | 2.20   | 0.42   |
| 大型バス  | 0.017 | 24.00  | 0.33   |
| 大型貨物車 | 0.007 | 1.10   | 0.50   |

|       |                                     |                     |
|-------|-------------------------------------|---------------------|
| 小型車   | 11,915 × 0.08 ÷ 953 台               | 953 × 2.2 ÷ 2,097 人 |
| 大型バス  | 797 × 0.08 ÷ 64 台                   | 64 × 24 ÷ 1,536 人   |
| 大型貨物車 | 7,171 × 0.007 ÷ 50 台                | 50 × 1.1 ÷ 55 人     |
| 合計    | 2,097 + 1,536 + 55 = <u>3,688 人</u> |                     |

## ◆飲食施設

飲食施設は道の駅に併設することで道路利用者の集客を見込めることから、サービスエリアにおけるレストランの規模算定に従い、規模を算定しました。

図表 3 レストランの規模算定

| 名 称   | 用 途       | 利用・使用機能            | 規模の算定    |      |      |
|-------|-----------|--------------------|----------|------|------|
| レストラン | 〔面積算出項目〕  |                    | 小型車      | バス   | 貨物車  |
|       | 駐車まず数     | P(台)               | 64       | 12   | 28   |
|       | 駐車回転数     | r (回/h)            | 2.4      | 3    | 2    |
|       | 車種別駐車台数   | Pa = P × r (台/h)   | 153.6    | 36   | 56   |
|       | 車種別乗車人員   | W (人/台)            | 2.2      | 24.0 | 1.1  |
|       | 立寄人数      | N = Pa × W (人/h)   | 337.92   | 864  | 61.6 |
|       | レストラン利用率  | U                  | 0.3      | 0.1  | 0.3  |
|       | レストラン利用人員 | NL = Σ N × U (人/h) | 206      |      |      |
|       | レストラン回転率  | C (人/h)            | 2        |      |      |
|       | 席数        | V = NL / C (席)     | 104      |      |      |
|       | 1人当たり面積   | M (㎡)              | 1.6      |      |      |
|       | レストラン面積   | LS = M × V (㎡)     | 167      |      |      |
|       | 厨房面積      | LS × 0.4 (㎡)       | 66.8     |      |      |
|       | その他付属室    | LS × 1.8 (㎡)       | 300.6    |      |      |
|       | 将来客席増築用   | LS × 0.5 (㎡)       | 83.5     |      |      |
|       |           |                    | 計 617.9㎡ |      |      |

※駐車まず数は、計画交通量をもとに道路設計要領等に従い算定しています。

上表においてその他付属室は、従業員休憩室、事務室、倉庫、トイレ等の面積であり、道の駅全体で共有可能であることから、必要面積から除きます。また将来客席増築用スペースは広場等で確保することとし、現時点では必要面積から除きます。

よってレストランは、約 250 ㎡程度(客席 104)であれば導入できる可能性があります。